

新潟県本土側で 7 年ぶりに採集されたニホンイトヨの記録

渡辺晃史¹・清水哉多²

¹新潟大学大学院自然科学研究科, 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050(〒950-2181)

²新潟市水族館マリニピア日本海, 新潟県新潟市中央区西船見町 5932-445(〒951-8555)

First collection record of *Gasterosteus nipponicus* in mainland Niigata Prefecture in seven years

Koushi WATANABE¹, and Kanata SHIMIZU²

¹Graduate School of Natural Science and Technology, Niigata University 8050 Igarashi 2-chome, Nishi Ward, Niigata City, Niigata Prefecture, Code: 950-2181, Japan

²Niigata City Aquarium Marinepia Nihonkai, 5932-445 Nishifunamicho, Chuo-ku, Niigata City, Niigata Prefecture, 951-8555, Japan

Abstract

Gasterosteus nipponicus HIGUCHI, SAKAI and GOTO, 2014 is a species of fish belonging to the order Gasterosteiformes. It inhabits the Sea of Japan coast and the Pacific coast north of Ibaraki Prefecture, exhibiting a migratory life history. It once formed large schools migrating upstream to river estuaries from February to May. In Niigata and Akita Prefectures, it was once abundant enough to be caught using gillnets and similar gear. However, its population declined sharply starting in the 1990s and has not recovered since. It is currently designated as a “Regionally Endangered Species” on the Ministry of the Environment Red List 2020 and as “Critically Endangered (Critically Endangered IA)” on the Niigata Prefecture Second Red List. The last official record within Niigata Prefecture was collected on May 14, 2017. This report documents an individual collected on May 10, 2024, in the coastal area of Nishikan Ward, Niigata City, Niigata Prefecture. This marks the first collection record within Niigata Prefecture in seven years, and this report is based on this individual.

はじめに

ニホンイトヨ *Gasterosteus nipponicus* HIGUCHI, SAKAI and GOTO, 2014 はトゲウオ目に属する魚類の一種である。遡河回遊型の生活史を送り、日本海沿岸および茨城県以北の太平洋沿岸に生息している。本種はかつて 2 月から 5 月にかけて河川河口域に集団で遡上し、新潟県や秋田県では食用として利用するため、刺し網などを使ったイトヨ漁が行われるほど資源量の多い魚であった。しかし、1990 年代から急速に生息数が減少した。長野県および新潟県を流れる信濃川では 1989 年に 3 万匹以上漁獲されていたが、1992 年には 1 万匹を切り、2004 年には 0 匹となっている(高比良, 2005)。その後も個体数が回復することなく、現在では環境省レッドリスト 2020 で絶滅の恐れのある地域個体群に、新潟県第 2 次レッドリストでは絶滅危惧 I 類に選定されている(環境省, 2020; 新潟県, 2001)。本種の新潟県本土側の記録では 2017 年 5 月 14 日に新潟東港船着場で採集されたものが最後となっている(新潟市水族館, 2017)。今回は 2024 年 5 月 10 日に新潟県新潟市西蒲区の沿岸域で本種を採集し、新潟県本土側で 7 年ぶりの採集記録になるため、標本に基づきここに報告する。

材料と方法

2024 年 5 月 10 日に新潟県新潟市西蒲区の沿岸域でタモ網を用いて採集を行った(図 1)。2024 年 5 月の海域別水深別平均水温は表層で 12.23°C で平年並みであった(新潟県, 2025)。水深が 20~40cm の砂浜波打ち際で本種と思われる個体が泳いでいるのを発見し、採集した。採取した個体については、日本産魚類検索全種の同定 第三版(中坊, 2013) に記載されている形態に基づき本種と同定した。

採集した個体は痩せており遊泳力も低下していたため、放流しても死亡する可能性が高いと判断し、自宅に持ち帰り水温 14°C、比重 1.023 で飼育を行った。飼育した個体は 2025 年 5 月 28 日に死亡し、その後 70% エタノールで固定を行い 70% エタノール液浸標本を作製した(図 2)。



図 1 調査地点

作製した標本はデジタルノギス(モノタロウ 70441657)を用い、全長(TL)と標準体長(SL)を 0.1mm 単位まで記録した。標本は長岡市立科学博物館に収蔵されている。

結果

記載(2025 年 12 月 4 日計測)

ニホンイトヨ *Gasterosteus nipponicus*

長岡市立科学博物館収蔵 標本登録番号: NMSM-AQ-FI 1

TL 70.7mm, SL 60.0mm, 新潟県新潟市西蒲区越前浜, タモ網, 2024 年 5 月 10 日, 渡辺晃史

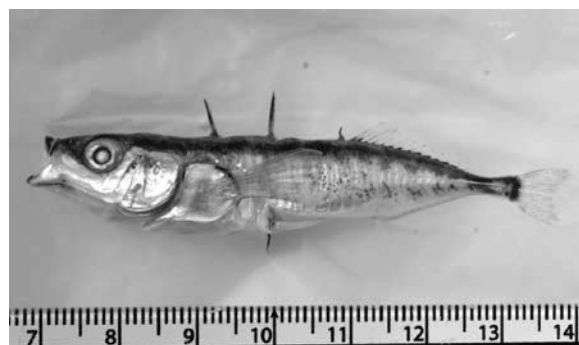


図 2 エタノール置換後のニホンイトヨ

記載

第 1 背鰭 3 棘 13 軟条、臀鰭 1 棘 10 軟条、鱗板数 34 枚、背鰭棘の鰭膜は基部にのみ付着(図 3)、キールは

通常膜質だが、本個体では一部石灰化が確認された(図4)。

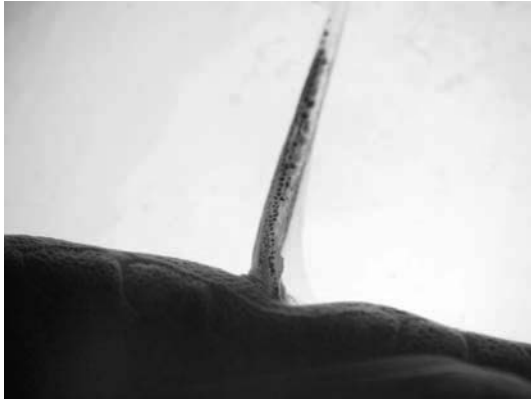


図3 ニホンイトヨの背鰭棘



図4 ニホンイトヨのキール

考察

本種は新潟県内で近年ほぼ絶滅状態となっており、隣接する県でも山形県では絶滅危惧 I A 類に、富山県では絶滅種に選定されている。しかし、年魚である本種が新潟県本土側でも数年に一度発見されるという事は、個体数が少ないながらも小規模な再生産が行われ、個体群が維持されている可能性が高い。実際に文献上の記録はないものの、近年佐渡島では少数だが成魚が確認されており、筆者自身も2024年に複数匹を目視している。また、信濃川や阿賀野川といった大規模河川では河川に入っただけの調査が困難であり、近年積極的に行われている環境DNAを用いた魚類相調査では、本種が遡上している時期に採水を行っているものが少なく、生息していたとしてもデータとして出てきていない可能性も考えられる。このようなことからニホンイトヨについては十分に調査が行われている

とは言い切れず、今後広域的でより詳細な調査を行うことによって本種の生息している河川を明らかにし、生息している河川環境などを調べることで本種の保全にとって重要であると考えられる。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、標本の登録を行っていた長岡市立科学博物館学芸員の鳥居 憲親氏、ニホンイトヨの採集場所および採集手法についてご助言をいただいた三扶 将彦氏に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>, 2025年12月11日確認.
- 中坊徹次, 2013. 日本産魚類検索全種の同定 第三版. pp. 606, 東海大学出版会, 東京.
- 新潟市水族館, 2017. 漂着混獲生物 脊椎動物 魚類. <https://www.marinepia.or.jp/study/drifting/entry-12260.html>, 2025年12月24日確認.
- 新潟県, 2025. 2024年海況(水温)情報. <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/suisan-kenkyu/2024kaikyuu.html>, 2025年12月25日確認.
- 新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. pp. 89, 新潟県. 新潟.
- 高比良光治・前田諭・山本有二・渡辺 晋・手塚文江, 2005. 「信濃川下流域における魚類を中心としたエコロジカルネットワークの再生について—河川・流域の浅場湿地環境に着目して—」. リバーフロント研究所報告, **16**: 43–50.

